



古代



じんむ  
第1代 神武天皇  
神日本磐余彦尊  
B.C.660～B.C.585  
the Emperor Jimmu



すいせい  
第2代 綏靖天皇  
神彦名川耳尊  
B.C.581～B.C.549  
the Emperor Suizei



あんのい  
第3代 安寧天皇  
磯城津彥玉手看尊  
B.C.549～B.C.511  
the Emperor Annei



いとく  
第4代 懿德天皇  
大日本彦稻友尊  
B.C.510～B.C.477  
the Emperor Itoku



こうしやう  
第5代 孝昭天皇  
觀松彦香殖稻尊  
B.C.475～B.C.393  
the Emperor Kōshiyō



こうあん  
第6代 孝安天皇  
日本足彦国押人尊  
B.C.392～B.C.291  
the Emperor Kōan



こうらい  
第7代 孝靈天皇  
大日本根子彦大瓊尊  
B.C.290～B.C.213  
the Emperor Kōrei



こうげん  
第8代 孝元天皇  
大日本根子彦国率尊  
B.C.214～B.C.158  
the Emperor Kōgen



かいかい  
第9代 開化天皇  
稚日本根子彦大日尊  
B.C.158～B.C.98  
the Emperor Kaika



すじん  
第10代 崇神天皇  
御間城入彦五十瓊殖尊  
B.C.97～B.C.30  
the Emperor Sujin

古代

### 縄文文化の特徴

【経済・社会】一貧富の差  
狩猟・漁労  
採取の生活—果実など  
【道具】  
磨製石器・打製石斧  
石槍・弓矢の利用  
【住居】  
竪穴住居  
【墓制・宗教】  
屈葬  
アニミズム(精霊崇拜)



### 弥生文化の特徴

【経済・社会】一貧富の差と身分の差  
水稲耕作  
狩猟・漁労・採取も並存  
【道具】  
鉄器の使用  
青銅器  
(主に祭器・宝器・装身具として利用)  
【住居】  
竪穴住居・高床倉庫  
男は袷袢衣、女は貫頭衣  
【墓制・宗教】  
伸展葬



### 凡例

代数  
第40代 天武天皇 — 御名  
大海人 — 追号  
673-86  
the Emperor Tenmu  
Oama  
在位年間

### 縄文土器の編年



### ●弥生時代の土器●

前6000頃 黄河中流域で畑作、  
長江下流域で水稲耕作始まる  
前1600頃 殷王朝成立(～前1043)  
前1050 周王朝、中国華北を統一  
前770 春秋時代始まる(～前403)  
前403 戦国時代始まる(～前221)  
前221 秦始皇帝、初めて中国を統一  
前146 カルタゴ滅亡  
前1世紀 百余国に分立、漢(楽浪郡)に遣使



省略





ゆうりやく  
第21代 雄略天皇  
大泊瀬幼武尊  
456~79  
the Emperor Yuryaku



せいらい  
第22代 清寧天皇  
白髮武大臣推稚日本根子天皇  
480~84  
the Emperor Seinei



けんそう  
第23代 顕宗天皇  
弘計天皇  
485~87  
the Emperor Kenzo



にんけん  
第24代 仁賢天皇  
億計尊  
488~98  
the Emperor Kennin



ぶれつ  
第25代 武烈天皇  
小泊瀬稚鸕鷀天皇  
498~506  
the Emperor Buretsu



けいたい  
第26代 継体天皇  
男大迹尊  
507~31  
the Emperor Keitai



あんかん  
第27代 安閑天皇  
勾大兄  
531~35  
the Emperor Ankan



せんか  
第28代 宣化天皇  
武小広国押盾尊  
535~39  
the Emperor Senka



きんめい  
第29代 欽明天皇  
天國排開広庭天皇  
539~71  
the Emperor Kinmei



びたつ  
第30代 敏達天皇  
詔語田沙中倉太珠敷尊  
572~85  
the Emperor Bitatsu



岡田山古墳出土鉄刀(六世紀後半) 半島根県松江市  
稲荷山古墳出土鉄剣(五世紀後半) 埼玉県行田市  
石上神宮七支刀(四世紀後半) 奈良県天理市

漢字の使用

刀身(上図)や鏡面(下図)の二つの円に囲まれた圏には文字が刻み込まれている。



陽田八幡神社人物画像鏡  
和歌山県橋本市蔵 直径19.8cm 重さ1.43kg

【4世紀末~5世紀の遷来】

朝鮮半島では天候不順から飢饉状態になっていて、高句麗の南下政策とも重なり、飢饉と戦争を避けて百濟・任那・新羅などから渡来し畿内中心に定住した。主に手工業的技術者集団で、大和政権に編入された。

<弓月君> (秦氏の祖)

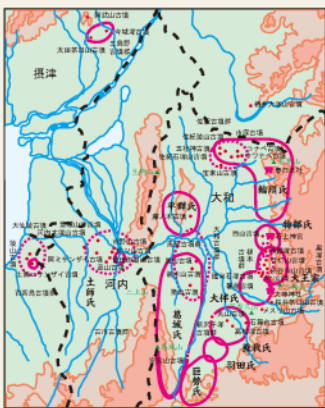
養蚕・機械を伝える

<阿知使主> (東漢氏の祖)

文筆にすぐれ、史部を管理

<王仁> (西文氏の祖)

「論語」「千字文」を伝えたと言われる



▲大和地方の有力豪族の勢力範囲と古墳



①飛鳥寺釈迦如来像 (止利仏師・作)  
※飛鳥彫刻の特徴は、アルカイックスマイル(古拙的微笑)にある。



②半跏思惟像 (広隆寺)



③半跏思惟像 (新羅時代作)



▲6C初~7Cの朝鮮



▲仏教の伝来 (前6世紀~後6世紀)

462 済、没。興、宋に遣使

463 百濟から陶工・土工が来日

478 興、没。武、宋に遣使・上表

479 南齊高帝、倭王を鎮東大將軍とす(『南齊書』)



南齊高帝



梁武帝

486 フランク王国、建国(〜843)

一氏姓制度の強化一

502 梁武帝、倭王を征東大將軍とす(『梁書』)

天皇	大臣	大連
21 雄略	群臣眞鳥	大伴家原 物部目
26 繼体	巨勢真人	大伴金村 物部麁鹿火
29 欽明	蘇我稚目	大伴金村 物部尾輿
30 敏達	蘇我馬子	物部守屋

▲5世紀末~6世紀末の大和政権(大化の改新後に改正された)

507 大伴金村ら男大迦王を継体天皇とする

511 都を山背国筒城に移す

512 大伴金村、任那の4県を百濟に割讓

513 百濟、五経博士を送る

522 南梁の達摩、佛教を伝える

一皇位継承で豪族対立一

527 筑紫国造磐井、反乱(〜28)。

528 大連・物部麁鹿火、磐井の反乱を平定。

534 都を大倭勾金橋宮に移す。

~各地に屯倉・名代を定める~

538 百濟聖明王、仏像と経論を日本に送る

<仏教伝言> (『書紀』は552年)

552 大臣・蘇我稚目と大連・物部尾輿、崇仏論争す

554 百濟、援兵を請う。百濟聖明王、敗死

~五経、易、医博士、採薬師、楽人ら来日~

562 任那の日本府、新羅に滅ぼされる

一飛鳥文化一

577 百濟から造仏・造寺工らが来日

【6~7世紀の遷来】

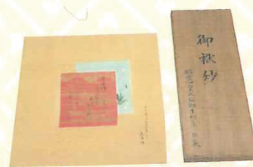
大和政権の朝鮮進出や楽浪郡・帯方郡の滅亡、百濟・高句麗の滅亡など政情の変化で日本に百濟・任那・高句麗などの人々が渡来してきた。『新撰姓氏録』(815年)によると氏族1182氏のうち約30%(326氏)が渡来系で占められている。後に全国に分散され、東国(武蔵・上総・常陸・相模・伊豆)などに編入された者も多い。地名などの由来が今なお全国に多数残されていて、儒教・仏教・易・暦・医などを伝え、飛鳥文化の形成に貢献した。五経博士(『易経』『書経』『詩経』『礼記』『春秋』)司馬達等(孫に止利仏師)、親朝(曆本を伝える)、曇徴(紙墨・絵の具の製法)、味摩之(伎楽の舞)など。

省略



# 天皇家系図

★ 121 孝明天皇 — 122 明治天皇 (睦仁)



照憲皇太后様御手廻の系にて作られた御袂紗\*



昭憲皇太后(美子)



123 大正天皇 (嘉仁)



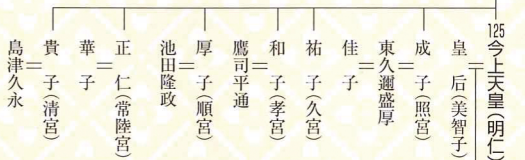
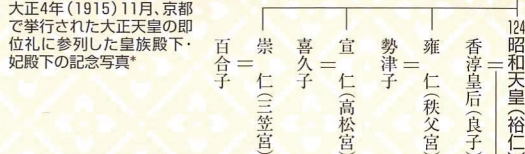
大正4年(1915)11月、京都で挙行された大正天皇の即位礼に参列した皇族殿下・妃殿下の記念写真\*



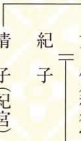
貞明皇太后(節子)



124 昭和天皇 (裕仁)



昭和天皇の子供たち\*  
左から継宮(今上天皇)、成子内親王(照宮)、和子内親王(孝宮)、厚子内親王(順宮)



文仁(秋篠宮)

皇太子(徳仁(浩宮))

愛子(敬宮)



梨本宮  
守正王殿下



大正4年11月11日大正天皇即位式賢所御神楽の儀にて梨本宮守正王殿下着用\*



梨本宮  
伊都子妃殿下



大正4年11月11日大正天皇即位式賢所御神楽の儀にて梨本宮伊都子妃殿下着用\*